

『山陰・山陽スマート観光プロジェクト』体験バスツアーを実施しました！

～ 島根県の出雲大社・石見銀山をめぐる、“スマート観光”の魅力を体験 ～

中国総合通信局(局長:齊藤一雅)と山陰・山陽スマート観光プロジェクト推進協議会(会長:相原玲二 広島大学教授、情報メディア教育研究センター長)(以下、「協議会」。)は、平成26年6月19日、『山陰・山陽スマート観光プロジェクト』体験バスツアーを実施しました。今回のバスツアーは、AR(拡張現実技術)、多言語対応、WiFiという“外国人やシニアに優しく若者を惹き付ける”『スマート観光情報インフラ』の3点セットが整備された出雲大社と石見銀山を訪問し、“スマート観光”の魅力を実際に体験することを通じて、その有効性や課題等を評価することを目的とするもので、協議会の会員等41名が参加しました。

出雲市の「出雲市観光ナビ」、大田市の「石見銀山 大田市観光ナビ(試験運用中)」はいずれもSkyWareアプリを利用するもので、参加者はスマートフォンに表示される道案内に従って進みながら、時々ARに切り替えて観光情報(音声解説コンテンツや多言語対応コンテンツを含む)や周辺のお店の情報を確認しました。

参加者からは、「ARアプリを利用した観光案内は非常に分かり易い」、「これまで見逃していたスポットを知ることができた」、「看板が少ない石見銀山ではARの情報が役に立つ」などの意見が出され、高い評価が得られました。

一方で、「コンテンツの内容の充実を望む」、「位置情報の精度を上げてほしい」といった声も聞かれました。

バスツアーを終え、齊藤局長は、「スマホを使ったスマート観光のスタイルは、ガイドブックの代わりに“自分専属の通訳兼ガイド”と一緒にめぐる観光。団体ツアー型の観光なら生身のガイドさんも頼めるが、ガイドさんは数も限られ、料金もかかる。今後は、外国人も含め、個人、少人数の“マイペース”の観光がメジャーになる。『スマート観光』は、スマホが“自分専属の通訳兼ガイド”になってくれる新しい観光のスタイルであり、今後は、若者、シニア、さらに、外国人観光客の誘致にも不可欠なものになる。数年後には当たり前になっているはず。」と感想を述べました。

中国総合通信局では、今後も協議会と連携し、中国地域における『スマート観光』の導入と普及に向けて、様々な取り組みを進めてまいります。



早朝に広島駅を出発



観光客で賑わう
出雲大社の神門通り



緑豊かな出雲大社



歴史と情緒を感じさせる
大森地区の町並み
(石見銀山)



AR観光情報を確認する
参加者(出雲大社)



AR観光情報を確認する
齊藤局長(出雲大社)



韓国語によるAR観光情報を確認する
韓国人留学生(石見銀山の
大森地区)

＜お問い合わせ先＞ 情報通信部 電気通信事業課 082-222-3375
情報通信振興課 082-222-3466